

中日ニュース

シネスコ版

道新 16144
高新 16227
新愛媛 1617
甲新 1670

泉雨本道環う1200 (本編) とい子らの航海日記 (エッセイ)
本編同

No. 394^{36.8.4}
海の夜を染る花火 - 2840 (本編) とい子らの航海日記 (エッセイ)
とい子らの山麓旅行 - 1200 (本編) 消えゆく京の名物 (エッセイ)

一、新人の躍進めざまし

——全日本水上

今年の日本選手権水上大会は、世界の強豪八選手を招いて七月二十八日から三日間にわたって開かれた。ライトに照らされ目まぐるような夜の神宮プールでは、熱戦が繰り展げられ、四つの世界新記録を生む快挙をなしました。

今年の大会に参加した内外選手とも新人の抬頭が目覚しく、今や世界の水上界もスーベル・バーグの手で躍進の時代を迎えたようです。

一、日本一のトンネル開通

——福井

三十二年來工事を重ねてきた日本最長の北陸トンネル(敦賀—今庄間、一三・八七二メートル)が、この程、貫通をみることになりました。

七月三十一日、国鉄十河総裁が最後の岩盤爆破のスイッチを入れ、待望の貫通。このトンネルの完成により、北陸地方は産業・経済面での一段の発展が約束されています。

一、良い子らの航海日記

——名古屋・東京

夏休みの良い子達を海の旅に招待する『中日海洋エクスカーション』が、二十七日、八六〇名の子供達をのせて、名古屋港から出航しました。

初めての海の生活に、子供達は船内になにもかもが、新鮮な驚きの種。黒潮のかおりにつつまれ、明日の東京での遊覧を夢みて、十時に、床につきました。

一、消えゆく京の名物

——チンチン電車

明治三十八年にイギリスから輸入され、永く京都市民から親まれて来た北野線が七月かきりで取りはらわれることになりました。

七月三十一日に、その送別会が開かれ、その後、消え行く名残りのパレードをおこないました。

日本の群像

一、花火の裏方

夏の夜空を彩る花火。その花火の製作に生涯を打ち込んで来た長野の青木儀作さんは黄綬褒賞に輝く名人です。

だが、花火製造には、代々受け継がれてきた家伝の秘技と高度にすぐれた経験とカンとが必要とされます。三河花火として知られている愛知県岡崎をはじめ、花火は、ほとんどが、手内職による家内零細企業。その為め火災による危険も起ります。

花火大会の当日、花火師がたんせいこめて作り上げた花火を、裏方達は昼の中から来て、すえつけます。いざ本番の時は、まるで戦場さながら、右に左に、汗みどろになって火の芸術を打ち上げます。